



## 教授の呟き

### 第34回

# 就職活動に思う人材育成の悩み

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

#### ●●● 大学での人材育成

最近、ロジスティクスの重要性が認識されるにつれて、人材育成が話題にのぼるようになった。

筆者が属している学科は、どんな業界でも役立つようにと、流通工学、数理情報、流通経営の3つの分野で約50の専門科目を用意し、学生の指向に合わせて選択できるようにしている。

ロジスティクスに必要な幅広い教養を身につけるべく基礎教育科目を充実させながら「大学で学んだことが、直ちに実社会で役立つとは思えないが、いつの日か役に立つはず。その日まで、勉強を続けてほしい」と願っている。

しかし3年生が就職活動の準備に取りかかる秋を迎えると、学生も教師も、それぞれに思い悩むことになる。

#### ●●● 就職活動で困惑する学生

就職活動に挑む学生の多くは、大学入学時の偏差値ではなく、在学中に身につけたロジスティクスの知識を評価してほしいと考えている。そのため専門知識を問われなければ、かえって不安を感じるようだ。「面接試験でも、専門知識を披露する機会は少なかった」と、振り返る4年生も多い。

仮に入社したら、どのようなキャリアパスがあるのだろうか、気に

する学生もいる。学んできた専門科目が、直ちには役立たないと自覚しているからこそ、入社後の行く末を心配している。

さらに、各社のロジスティクス部門の人たちの処遇にも、関心が高い。彼らが重用されていないのであれば、自らの将来も暗いだろうと想像するからである。

#### ●●● 認識の違いに戸惑う教師

すべての学生が「オール優」の成績を取るわけではないから、教えるも覚えていない学生は存在する。わが身を振り返れば、学生に厳しいことは言えない。しかし企業の方からは、学生の専門知識の不足を指摘され、ロジスティクス教育の充実についてご注文を受けたことがあった。

また、経済分野でさえ「金融工学」が出現しているくらいだから、コンピューターの進歩に伴う解析技術の発展を考えれば、ロジスティクスに工学的センスは不可欠なはずである。しかし海外とは異なって、わが国ではロジスティクスの工学系分野に対する認識が、いまだ低いように思う。

#### ●●● 高学歴社会の行き違い

2005年5月現在の大学・短大への進学率は、同世代全体から見ると51.5%であり、大卒者の大学院への進学率は12.0%という数字がある。しかし工学系に限れば30~40%程度の大学院進学率は普通である。約30

年前、筆者の学生時代の大学進学率(20%程度)を考えてみれば「昔の大卒が、今の大学院卒」に相当する。これが、高学歴社会の実態である。<sup>(1)</sup>

授業が主体の学部4年間とは違って、研究に専念できる大学院を2年間過ごすとは、学生は考える力を身につけて飛躍的に成長する。企業が必要とするロジスティクスの知識は、業種や企業によって異なるとは思いますが、高度技術社会に合わせて深い専門知識と考える力を持つ大学院生の需要は、今後とも増加するに違いない。

しかし現実には、いくら最新の研究知識を積み重ねても「大学の研究は難しい。役に立たない」と一蹴(いっしゅう)されてしまうこともある。逆に「会社は、古い理論しか使っていませんよ」と嘆く大学院修了生もいる。このような行き違いが、時折見られるのである。

### ●●● 企業に必要な人材とは ●●●

企業に必要なロジスティクスの人材には、現場型、管理型、経営型があるだろう。

例えば同じ在庫でも、現場型では棚入れやピッキングの方法が重要だろうし、定期発注・定量発注程度の知識で十分かもしれない。

管理型では、最適発注モデルなどの統計的解法の基礎や、配送計画・在庫管理などの高度な知識が必要だろう。

経営型になれば、調達から生産や

## 人材育成における大学の悩み

### 学生の悩み

- ①大学で身につけた専門知識は、どのように評価されているのか。
- ②キャリアパスは、あるのだろうか。
- ③ロジスティクスの先輩は、重用されているだろうか。

### 教師の悩み

- ①すべての知識を身につけたオール優の学生は少ない。
- ②ニーズが増えるだろう工学的センスを、企業はどこまで必要としているか。

### 大学院に関する悩み

- ①現在の大学院生は30年前の大卒だが、それでも採用しにくいだろうか。
- ②最新の理論を活用できる場合は、社会にあるのだろうか。

### 企業に対する疑問

- ①現場型・管理型・経営型のどれに、企業ニーズがあるのか。
- ②企業内の他部門でのロジスティクスの理解は、どこまで行き渡っているのか。

消費に至るサプライチェーン・マネジメントと在庫管理の相互関係などは必須だろう。

しかし、社内の他部門(財務、営業、生産、開発など)がロジスティクスに無関心であれば、いくら高度な知識を持つ人材を育成しても、結果としては現場型で十分ということ

もあるかもしれない。

「人材を受け入れる企業の姿勢が、大学教育にも反映される」という事実を再確認させられるのが、秋から始まる就職活動シーズンなのである。



(1) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/04073001/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/04073001/001.htm)

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

